

1. 基本情報

- (1) 国名：トンガ王国（以下、「トンガ」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ヌクアロファ／トンガタプ島
- (3) 案件名：ファアモツ国際空港改善計画
(The Project for Improvement of Fua' amotu International Airport)
- (4) 計画の要約：トンガの首都に位置するファアモツ国際空港において、既存国際旅客ターミナルビル(PTB)の拡張及び改修を通じ、国際線・国内線統合PTB及びその付帯施設等を整備することにより、水際対策強化を含む同空港の利便性の向上及び将来的な航空需要増加への対応を図り、もって同国の経済成長基盤の強化に寄与するもの。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

太平洋島嶼国地域は、日本と豪州及びNZを結ぶ縦のシーレーンと、インド洋及び南シナ海から太平洋へ抜ける横のシーレーンが交わる、地政学的に極めて重要な地域であり、我が国は「太平洋・島サミット(PALM)」の枠組み等を通じて協力の深化を図っている。

このうちトンガについては、南太平洋唯一の王国であり、同国の王室は日本の皇室と非常に親密であるほか、文化・スポーツの交流等を通じ、良好な二国間関係を築いている。加えて、同国政府は国際場裡においてほぼ一貫して我が国を支持するなど、重要なパートナーである。近年は、他ドナーの影響力拡大もあり、対外債務が増大する等、自立的な成長に対する更なるリスクが増大する中、同国の自立的・持続的な発展の後押しと二国間関係の強化のため継続的な支援を行っている。

また、同国は気候変動や自然災害に対する脆弱性を抱えており、世界的にも災害脆弱性が高い国の一つに挙げられている(World Risk Report 2021)。2022年1月に発生した火山噴火及び津波に際しては、我が国は、発災直後から、同国政府や関係国・機関等と緊密に連携し、国際緊急援助隊・自衛隊部隊の派遣や緊急援助物資の供与等の迅速な支援を行うなど、復旧・復興支援に積極的に貢献しているところである。

同国はサイクロンや海底火山噴火といった度重なる自然災害及び新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に見舞われた結果、2年連続で赤字予算を編成しており、経済成長基盤の強化は同国の安定と成長にとって急務となっている。多額の対外債務を返済していく上でも、航空需要拡大を伴う観光や通商の振興等を通じた経済基盤の強化は重要である。

海底火山噴火からの復旧・復興支援への支援のみならず、トンガがこれらの課題に対処するにあたり我が国が積極的に支援することは、二国関係の強化や、太平洋島嶼国地域における我が国のプレゼンスを高めることにも繋がるため、本計画実施の外交的意義は大きい。

(2) 当該国における航空セクター開発の現状・課題及び本計画の位置付け

同国は、南北約 800km に広がる約 170 の島々で構成されるポリネシアの島嶼国である。同国の全人口約 10 万人のうち 7 割強が首都ヌクアロファのあるトンガタプ島に集中する。他方、国土が地理的に広範囲にまたがるため、重要な移動・輸送手段である空路は、GDP の 11% (2019 年) を占める観光や通商に加え、様々な社会サービスの提供でも重要な役割を担っている。

本計画の対象は、トンガタプ島に位置し同国の玄関口であるファアモツ国際空港である。同空港は国際線と国内線が就航しており、国内線旅客ターミナルビル（以下「PTB」という。）は 1978 年に国際線・国内線 PTB として建設された後、1985 年に拡張され、その後も修理・改装しながら使用が続けられている。我が国無償資金協力「ファアモツ国際空港ターミナル施設建設計画」（1989・1990 年度 E/N、13.93 億円）によって国際線 PTB が新たに完成したことに伴い、現在は、国際線 PTB と国内線 PTB を分けて運用している。

我が国が無償資金協力を実施した当時は、旅客数がさほど多くなかったために運用上の問題は生じていなかったが、近年の航空需要の高まりに伴う利用旅客者数の増加により、国際線 PTB の出発ロビーについては手狭な状態が続いている。他方で国内線 PTB は老朽化に加え、国際線 PTB と離れた場所に位置することから、利用客の利便性が悪く、また保安検査機器がないことにより保安及び安全面における問題が指摘されている。さらに、国際線 PTB は、2022 年 1 月に発生した海底火山噴火時に日本を含む各国からの緊急援助物資受入れの拠点となったが、降灰被害を受け空港機能が一時停止を余儀なくされたほか、降灰除去作業による建物への損傷が一部で確認されている。同国政府は復旧・復興、及び本島と離島との連結性向上による離島支援という観点から、国際線・国内線 PTB の統合を伴う同空港整備を求めている。

また、同国は新型コロナウイルスの世界的感染拡大を受け厳しい入国制限措置を採り新型コロナウイルスの国内への流入を抑え込んでいたが、厳格な入国制限措置は同国経済に大きな影響を与えただけでなく、海底火山噴火時の支援物資・要員の早急な受入れにも支障を来した。このため、同国政府は、水際対策機能を強化し感染症防疫体制を確立した上での人の往来及び物流の活性化を目指しているが、現在の国内線 PTB には非接触による感染防疫管理を可能とする機材がなく、感染防疫体制を構築する上での課題となっている。

本計画は、国際基準に準拠した統合 PTB の整備等をもって、観光業などの産業を促進するものであり、「トンガ戦略的開発構想 2015-2025」の実現に不可欠な優先度の高い事業として位置付けられる。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 施設、機材等の内容

【施設】国際線 PTB の拡張・改修による統合 PTB 及びその付帯施設等の整備（総延床面積約 8 千㎡）

【機材】手荷物処理システム等航空保安機材一式

イ) コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、施工・調達監理、機材及び施設維持管理等にかかる技術指導

② 期待される開発効果

国際線出発旅客数の増加（213,296人／年（2019年実績値）→事業完成3年後の目標値：250,000人／年）等により、利便性向上への貢献が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：トンガ空港公社（Tonga Airports Limited：TAL）

④ 他機関との連携・役割分担：特に無し。

⑤ 運営／維持管理体制：本事業実施後の施設・機材等の運営・維持管理、人員整備等はTAL（2007年設立）が担う。

(2) その他特記事項

・環境社会配慮カテゴリ分類：B

・ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

・他の援助機関の対応：世界銀行が、航空投資プログラム（2011-2019年。総事業費3,770万米ドル）を実施している（国際線PTB改修、国際線駐機場拡張、滑走路・誘導路舗装改良、新貨物ビル・新管制塔建設等）。ニュージーランドが、2017年に同空港を含む同国の二つの主要空港に80万NZ\$（52万米ドル）を供与、X線検査装置、門型金属探知機、爆発物検査装置を導入している。

・トンガの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。同国は、統計上の所得水準は高いが、小島嶼国であり、気候変動や自然災害に対する脆弱性を抱えている（「環境的脆弱性」）ことに加え、経済規模が小さく、また歳入は外国漁船による入漁税等による税収及びODAにより支えられており、国際的な経済変動に脆弱であり、対外債務の割合も高いことから、返済能力の観点から有償資金協力が困難である（「経済的脆弱性」、「債務状況」）。第9回太平洋・島サミット（PALM9）では、「持続可能で強靱な経済発展の基盤強化」を重点分野の一つとして掲げ、インフラを含めた産業基盤整備（空港整備等）への協力を強化することが謳われており、小島嶼国特有の脆弱性を有する同国において最重要運輸インフラであるファアモツ空港を整備することは、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」における「連結性向上を通じた経済的繁栄の追求」にも資するものである（我が国の対外政策）。

上記の観点から、無償資金協力の供与が適当と判断できる。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ソロモン諸島向け無償資金協力「ヘンダーソン国際空港整備計画」（評価年度：2006年）の事後評価等にて、日本製PTB内装設備の調達・補充が難しく、維持管理に支障を来したことが指摘された。本事業では、TALによる補修部品の利用可能性及び調達方法を調査にて確認の上、調達先等を決定する。

以上

[別添] ファアモツ国際空港改善計画 地図

[別添] ファアモツ国際空港改善計画 写真

ファアモツ国際空港改善計画 地図



(出典：Google Map)

ファアモツ国際空港改善計画 写真



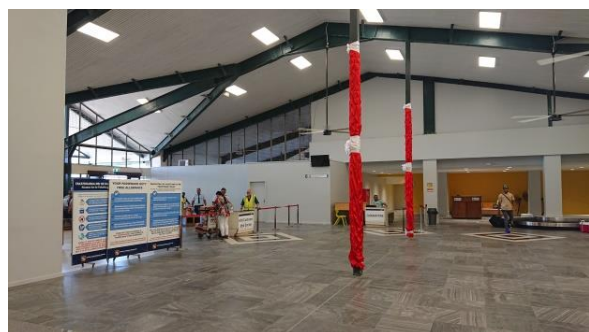
国際線 出発手荷物荷捌場



国際線 保安検査場



国際線 送迎デッキ



国際線 税関 (左) 検査 (中央)



国内線 旅客ターミナル外観



国内線 チェックインカウンター



国内線 出発/到着ロビー



国内線 公共エリア